

鳥取県の政策に関する県民意識調査
結果報告書

(令和元年 6 月調査)

令和元年 10 月



目 次

	ページ
【 調査の概要 】	
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 資料のみかた.....	1
4 回収状況と信頼区間.....	2
5 回答者の情報.....	3
【 結果の概要 】	
結果の概要.....	6
【 調査結果 】	
I 鳥取県の住みやすさについて.....	9
問1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか.....	9
問2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください.....	11
問3 あなたがいま、鳥取県内に暮らしていて、次の項目(設問)についてどう思われますか.....	13
II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について.....	15
問4-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度.....	15
問4-1-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度.....	17
問4-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度.....	19
問4-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度.....	21
問4-2-1 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度.....	23
問4-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度.....	25
問4-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度.....	27
問4-3-1 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度.....	29
問4-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度.....	31
問4-4 「県政のさまざまな取組」の満足度.....	33
問4-4-1 「県政のさまざまな取組」の満足度.....	35
問4-4-2 「県政のさまざまな取組」の重要度.....	37

Ⅲ	重点施策への関心・認識	39
	〈女性の活躍推進について〉	
問 5	ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画社会の認識	39
問 6	男女に関する役割などについて、次の項目(設問)についてどう思いますか.....	42
問 7	女性が出産後も子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策.....	43
問 8	介護と仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策	45
問 9	男女ともにワーク・ライフ・バランス実践を促す労働環境をつくるため、行政が行うべき必要な施策	47
問 10	男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するため、行政が行うべき必要な施策	49
	〈鳥取県の現状と目指す姿について〉	
問 11	鳥取県に暮らしていて、あなたは今の程度「幸せ」ですか	51
問 12	あなたの「幸福度」を判断する時に、あなたが重視することはなんですか.....	53
問 13	他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さは何だと思えますか	55
問 14	県が概ね 10 年間に取り組んできた次の事項(施策の柱)について、あなたはどう評価しますか ...	57
問 15	概ね 10 年後(2030 年頃)の鳥取県の将来は、現在と比べて明るいと思えますか	58
問 17	概ね 10 年後(2030 年頃)を見据えたとき、鳥取県の将来について目指していく姿	60
問 18	鳥取県の将来を考える上で重要な人口減少に係る対策として、効果的と思われるもの.....	62
問 20	人口減少による懸念事項として、あてはまる項目はどれですか.....	64
	【 自由記載 】 (問 16、問 19 の回答含む)	66
	【 資料 】	
	調査票	72
	集計結果	84

【 調 査 の 概 要 】

1 調査の目的

鳥取県には、都会にはない「豊かな自然」や「人と人との絆」、心豊かな暮らしを実現できる「幸せを感じる時間」があります。県ではこのような強みを活かし、県民の皆さんとともに様々な地方創生の取り組みを進めています。

これからも、住み慣れた地域で安全に安心して暮らし続けていくために、現在の状況や今後の要望など、率直なご意見をお伺いするため調査を行ったものです。

2 調査の概要

(1)調査対象	鳥取県内在住の18歳以上の者 3,000名
(2)抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出法
(3)調査時期	令和元年6月
(4)調査方法	(2)により抽出した者に対し、郵送により調査票を送付して実施した。なお、調査票の提出は無記名とした。
(5)有効回答数	1,500名
(6)回収率	50.0%(1,500/3,000)
(7)回答者の属性	性別:男性596人(39.7%)、女性893人(59.5%)、無回答11人(0.7%) 年齢:18~19歳(2.2%)、20~29歳(9.7%)、30~39歳(12.9%)、 40~49歳(17.6%)、50~59歳(18.1%)、60~69歳(28.7%)、 70歳以上(10.3%)

3 資料のみかた

(1)比率(%:パーセント)の表示について

原則として、各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。

複数回答の質問では、回答率の合計が100%を超える場合がある。

また、百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。

(2)「無回答」の取り扱いについて

以下については「無回答」として取り扱うこととした。

- ・回答が選択されていない場合
- ・指定回答数以上を回答している場合 例)単数回答の設問に複数回答を行っている場合など

(3)クロス集計の年代:18~19歳の取り扱いについて

クロス集計の18~19歳は標本数が少ないため他の年代と比較・分析する場合は除外することとする。

4 回収状況と信頼区間

(1) 必要標本数について

今回の調査においては、18歳以上の県人口474,305人(平成31年3月現在)から無作為に、3,000人を抽出し、調査の依頼を行った。そのうち有効回答数は1,500人であり、回収率は50.0%であった。

まず、標本数の設定については、次の式によって与えられる。

$$A = \frac{N}{\left[\frac{\varepsilon}{X(\alpha)} \right]^2 \cdot \frac{N-1}{\sigma^2} + 1}$$

- A = 必要標本数
- α = 推定を誤る確率
- $X(\alpha)$ = 正規分布の性質から与えられる値(1.96)
- N = 母集団の大きさ(満18歳以上の県民)
- σ^2 = 母分散
- ε = 精度

本調査では、信頼度を、95%とし計算を行った。この場合、 $X(\alpha)$ は、1.96であり、母集団の大きさは474,305人。精度を仮に3%、母比率を50%とし、それぞれ代入して計算すると、以下のとおりとなる。

$$A = \frac{474,305}{\left[\frac{3}{1.96} \right]^2 \cdot \frac{474,305}{50 \times 50} + 1} = 1,064.4435$$

よって、今回の調査において必要な最小標本数は1,064人であり、有効回答1,500人はこの条件を満たしているといえる。

(2) 標本誤差について

有効回答票の標本誤差を次の式によって計算した。

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{N-n}{N-1} \right] \cdot \frac{Q(1-Q)}{n}}$$

- B = 標本誤差
- N = 母集団の大きさ(満18歳以上の県民)
- n = 回答者総数(1,500人)
- Q = 母比率(0.5とする)

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{472,805}{474,304} \right] \cdot \frac{0.5(1-0.5)}{1,500}} = \pm 2.52$$

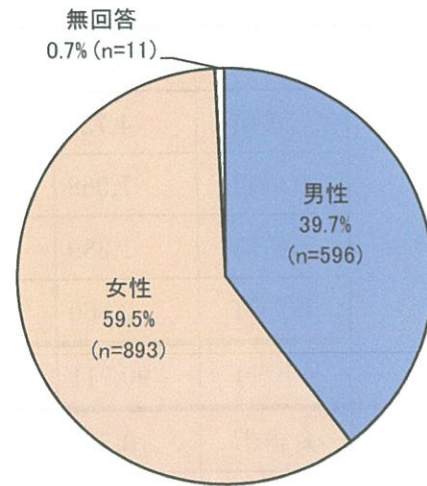
すなわち、標本誤差は $\pm 2.5\%$ しかないといえる。

5 回答者の情報

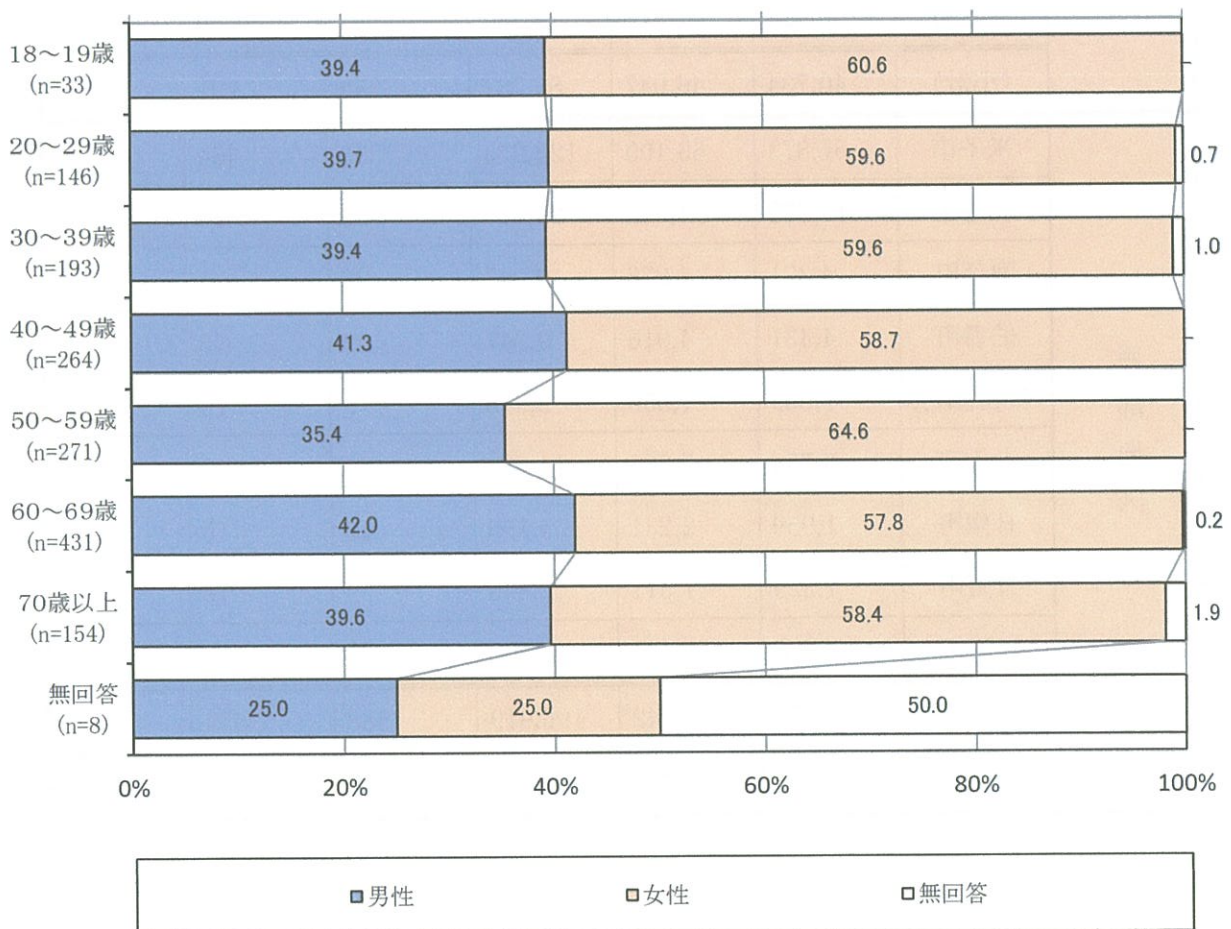
(1)年代



(2)性別



(3)性別 × 年代



<市町村別調査対象者数>

区 分		人 口			抽 出 数		
		男性	女性	合計	男性	女性	合計
東 部 地 区	鳥取市	74,668	82,055	156,723	468	520	988
	岩美町	4,726	5,283	10,009	30	33	63
	八頭町	7,068	7,693	14,761	44	50	94
	若桜町	1,389	1,561	2,950	9	10	19
	智頭町	2,860	3,302	6,162	19	22	41
	(小計)	90,711	99,894	190,605	570	635	1,205
中 部 地 区	倉吉市	18,515	21,261	39,776	120	133	253
	湯梨浜町	6,670	7,353	14,023	42	47	89
	三朝町	2,618	2,955	5,573	17	19	36
	北栄町	6,016	6,662	12,678	38	42	80
	琴浦町	6,915	7,816	14,731	45	50	95
	(小計)	40,734	46,047	86,781	262	291	553
西 部 地 区	米子市	57,873	65,100	122,973	363	404	767
	境港市	13,775	14,942	28,717	86	96	182
	南部町	4,371	4,876	9,247	28	31	59
	伯耆町	4,431	4,916	9,347	29	32	61
	日吉津村	1,359	1,556	2,915	9	10	19
	大山町	6,754	7,306	14,060	43	47	90
	日南町	1,959	2,231	4,190	13	15	28
	日野町	1,329	1,511	2,840	9	10	19
	江府町	1,226	1,404	2,630	8	9	17
	(小計)	93,077	103,842	196,919	588	654	1,242
合 計		224,522	249,783	474,305	1,420	1,580	3,000

<調査対象者の特性>

【性別】

区分	件数	割合
男性	596	39.7
女性	893	59.5
無回答	11	0.7
計	1500	100

【年代】

区分	件数	割合
18～19歳	33	2.2
20～29歳	146	9.7
30～39歳	193	12.9
40～49歳	264	17.6
50～59歳	271	18.1
60～69歳	431	28.7
70歳以上	154	10.3
無回答	8	0.5
計	1500	100

【職業】

区分	件数	割合
会社員 (公務員含む)	647	43.1
自営業 (家族従事者も含む)	157	10.5
パート ・ アルバイト	247	16.5
学生	42	2.8
専業主婦 (主夫)	152	10.1
無職	242	16.1
無回答	13	0.9
計	1500	100

【住まい】

区分	件数	割合
鳥取市	463	30.9
米子市	384	25.6
倉吉市	128	8.5
境港市	92	6.1
岩美郡	28	1.9
八頭郡	52	3.5
若桜町	10	0.7
智頭町	23	1.5
湯梨浜町	52	3.5
三朝町	19	1.3
北栄町	45	3.0
琴浦町	46	3.1
南部町	31	2.1
伯耆町	35	2.3
日吉津村	6	0.4
大山町	44	2.9
日南町	14	0.9
日野町	5	0.3
江府町	12	0.8
無回答	11	0.7
計	1500	100

【 結 果 の 概 要 】

I 鳥取県の住みやすさについて

- 鳥取県に対する愛着や誇りに思う気持ちは、約7割の人が「感じている」と答えている。
- 鳥取県で、今暮らしている地域は、約6割の人が「住みやすい」と答えている。
- 豊かな自然環境に恵まれていると思う人が約9割と圧倒的に多く、また治安が良い、住民が親切で人と人との繋がりがあと思うと約6割の人が答えている。
- 生活の中で公共交通機関の整備は、約6割の人が「整っていない」と答えている。

II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

【豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる】

- 「農林水産・畜産業の若き担い手育成」「農業の活力増進」の農林水産・畜産関係、また「次世代エネルギーの推進」に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「豊かな自然環境の保存・活用」「観光資源を活用した誘客の取組」「鳥取県周辺地域と連携した誘客の取組」等の自然と観光への取組に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「農林水産・畜産業の若き担い手育成」「農業の活力増進」「農林水産物の販売戦略」の農林水産・畜産関係の取組が優先すべき項目の上位を占めている。

【人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む】

- 「中山間地域の安心と元気をつくり出す」「女性が活躍できる社会に向けた取組」「若者の出会い、結婚応援の取組」に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「安心して出産や子育てできる環境」に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「安心して出産や子育てができる環境づくり」「高齢者や障がい者が輝ける地域づくりを進める取組」「中山間地域の安心と元気をつくり出す取組」が優先すべき項目の上位を占めている。

【幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ】

- 「暮らしやすく、まちを元気にしていく取組」「働く場の確保」「誰もが能力を発揮できる雇用の実現」等に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「他地域からの移住（転入）促進」「住み続けたい・帰りたい鳥取県の創造」「文化やアートを使った地域づくり」「スポーツの盛んな地域づくり」の取組に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「働く場の確保」「暮らしやすく、まちを元気にしていく取組」「住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造する取組」が優先すべき項目の上位を占めている。

【県政のさまざまな取組】

- 「県内交通の高度化への取組」「子どもの学力向上のための取組」等に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「健康を守り、医療体制を強化する取組」「災害に強いまちづくり・防災意識啓発にかかる取組」「地域犯罪や交通事故等を抑制・防止するための取組」に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「災害に強いまちづくり・防災意識啓発」「健康を守り、医療体制を強化」「県内交通の高速化」が優先すべき項目の上位を占めている。

Ⅲ 重点施策への関心・認識

<女性の活躍推進について>

- 「ワーク・ライフ・バランス」は約4割、「男女共同参画社会」は6割が「知っている」と答えている。
- 男女に関する役割などについて、約8割の人が「現実として家事や子育てが女性の役割となっていると思う」、約7割の人が「現実として介護が女性の役割となっていると思う」と答えている。
- 女性が出産後も子育てと仕事を両立するために行政が行うべき施策について、半数以上の人々が「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「育児による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」と答えている。
- 介護と仕事を両立するために行政が行うべき施策について、半数以上の人々が「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」と答えている。
- ワーク・ライフ・バランスの実践を促す労働環境をつくるために行政が行うべき施策について、約7割の人が「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」と答えている。
- 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策について約6割の人が「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」と答えている。

<鳥取県の現状と目指す姿について>

- 鳥取県での暮らしの幸せの程度について、「普通」から「とても幸せ」が約8割である。
- 幸福度の判断で重視することは、約7割の人が「家計の状況」「自身の健康の状況」と答えている。
- 他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さについて、約5割の人が「自然環境に恵まれている」と答えている。
- 県が概ね10年の間に取り組んできた事項(施策の柱)の評価について、「安全安心で美味しい食の魅力を提供する「食のみやこ鳥取県」の推進と、農林水産業の展開」「人、物、情報の「大交流時代」」「「あんしん医療体制」構築と「健康づくり文化」の創造」を『評価する』という回答が多い。
- 概ね10年後(2030年頃)の鳥取県の将来は現在と比べて明るいと思うかについて、約5割の人が「わからない」、2割強の人が「どちらかといえば暗い」、2割弱の人が「どちらかといえば明るい」と答えている。
- 概ね10年後(2030年頃)を見据えたとき、鳥取県の将来について、どのような姿を目指していくことが望ましいかについて、約3割の人が「希望する働き方や子育て、健康や生きがいなど、県民の生活の質の向上」、約2割の人が「豊かな自然を活かしたゆとり・ぬくもりのある暮らしの推進」と答えている。
- 人口減少に係る対策として約4割の人が「社会減対策(転出の抑制:県内就職の促進等、若者の県内定着など)」、約3割の人が「自然減対策(出生数の増加:出会い・結婚～妊娠・出産～子育ての切れ目ない支援など)」と答えている。
- 人口減少による懸念事項について、約4割の人が「若者が減少して活気がなくなる(若者が減少しまちの賑わいが減少)」、約3割の人が「高齢化による医療・介護ニーズ増加と支え手の不足」と答えている。

【 調 査 結 果 】

I 鳥取県の住みやすさについて

問1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか。(〇は1つ)

～鳥取県に対しての愛着や誇りを感じている人が約7割～

鳥取県に対する愛着や誇りは、「感じている」が46.2%、「少し感じている」が25.5%と、愛着や誇りを感じている人が71.7%と約7割ある。一方、「あまり感じていない」が4.2%、「感じていない」が1.4%と愛着や誇りを感じていない人は、5.6%と1割に満たない。

平成28年度-令和元年度を比較してみると、「感じている」「少し感じている」の合計は28年度が約8割と最も高く、29年度以降は約7割とほぼ横ばいで推移している。

年代別でみると、愛着や誇りを「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、60歳代が最も高く、30歳代が最も低くなっている。

性・年代別でみると、「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は男女共に60歳代が高くなっている。一方、男性は50歳代が、女性の30歳代が最も低くなっている。

地域別でみると、「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、西部地区が他の地域に比べ高くなっている。

図1 鳥取県に対しての愛着や誇りについて(n=1,500)

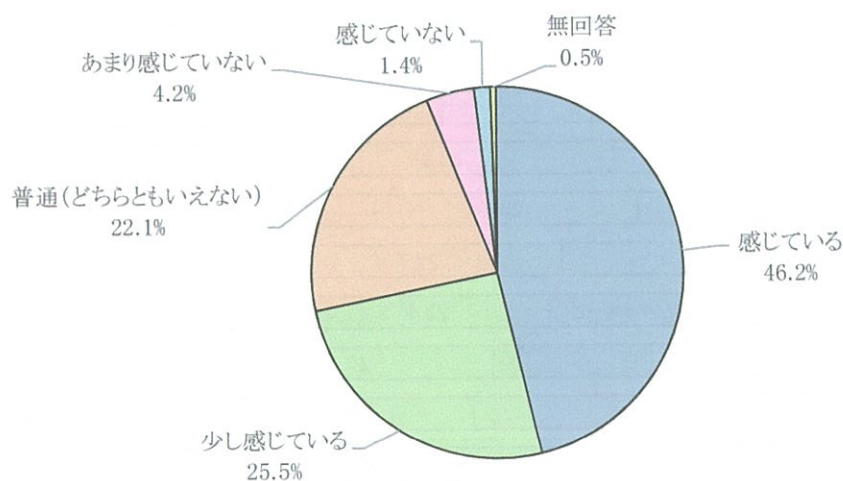


図2 鳥取県に対しての愛着や誇りについて

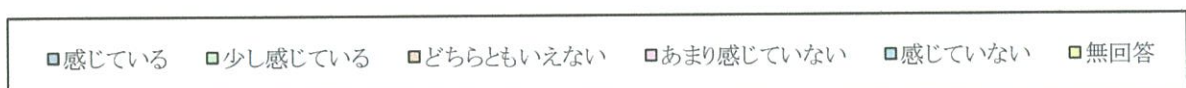
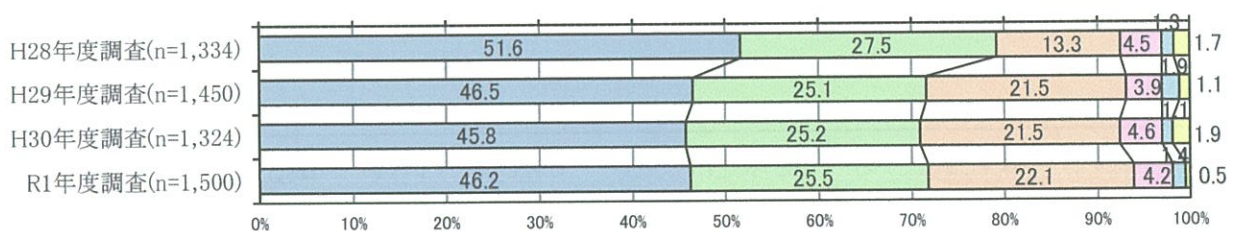
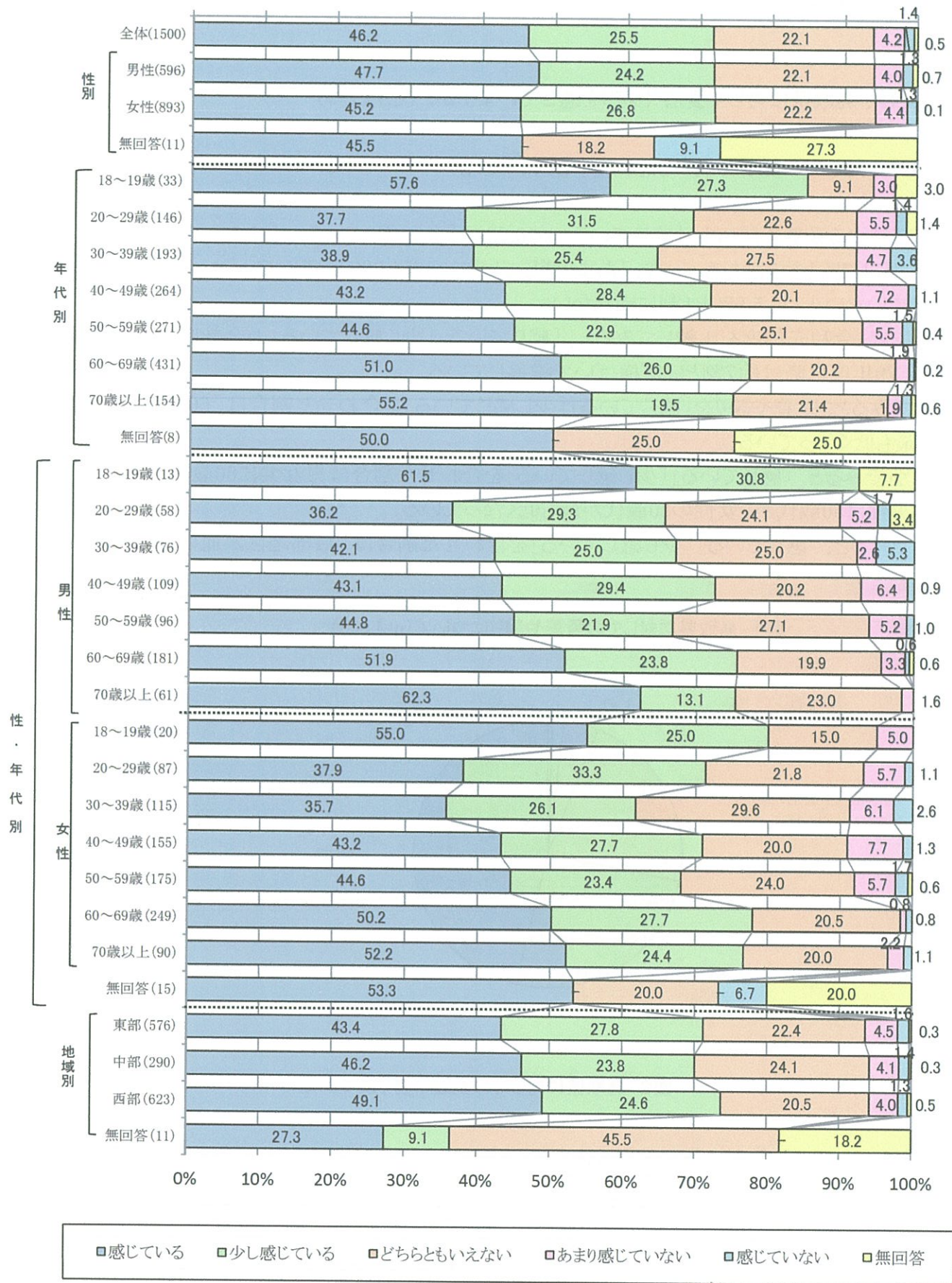


図3 鳥取県に対しての愛着や誇りについて



問2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください。(〇は1つ)

～「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」と約6割の人が住みやすいと回答～

今暮らしている地域の住みやすさは、「とても住みやすい」が18.3%、「どちらかという住みやすい」が43.0%と、住みやすいと答えている人が61.3%となっている。

一方、「どちらかという住みにくい」が9.2%、「住みにくい」が2.1%と、住みにくいと答えている人は11.3%となっている。

平成28年度-令和元年度を比較してみると、「とても住みやすい」、「どちらかという住みやすい」の合計は、28年度の74.9%が最も高く、29年度以降は減少傾向にある。

年代別でみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせた割合は、60歳代以上が高く、50歳代が最も低くなっている。

性・年代別でみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせた割合は、男性の60歳代以上が高くなっている。

地域別でみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせた割合は、西部地区が他の地域に比べ高くなっている。

図4 今暮らしている地域の住みやすさ(n=1,500)

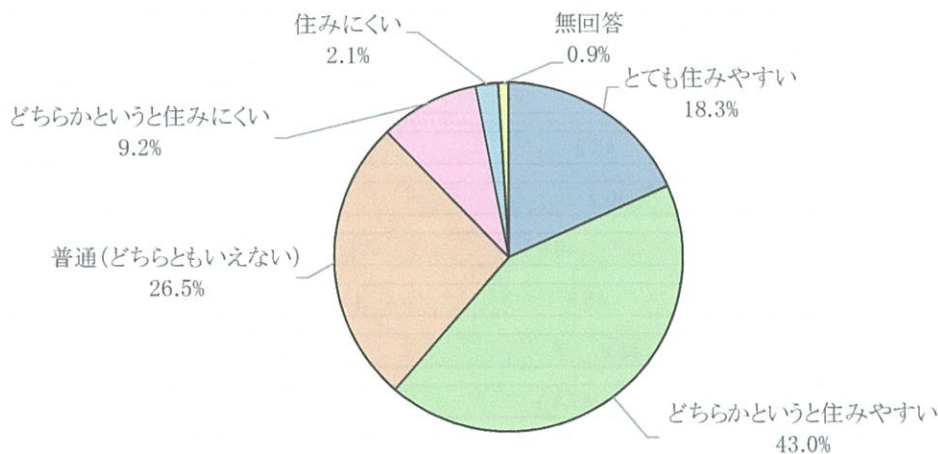
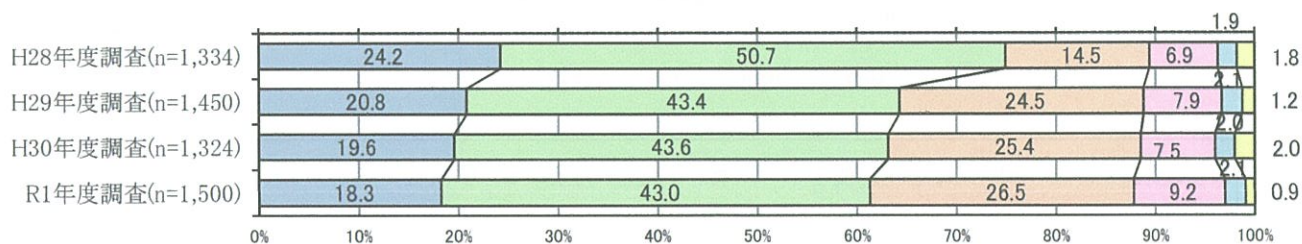
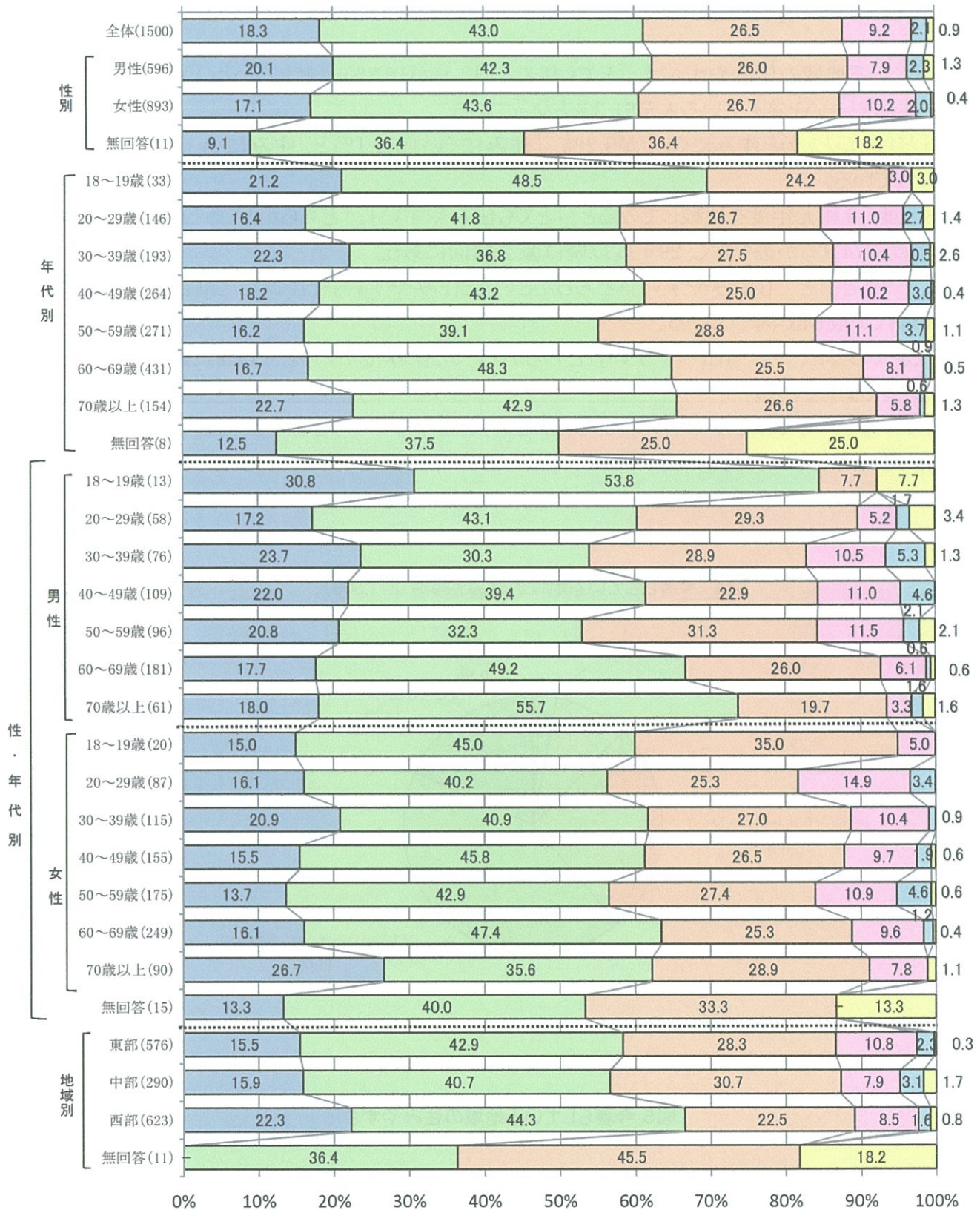


図5 今暮らしている地域の住みやすさ



とても住みやすい
 どちらかという住みやすい
 どちらともいえない
 どちらかという住みにくい
 住みにくい
 無回答

図6 今暮らしている地域の住みやすさ



とても住みやすい
 どちらかという住みやすい
 どちらともいえない
 どちらかという住みにくい
 住みにくい
 無回答

問3 あなたがいま、鳥取県内に暮らしていて、次の項目(設問)についてどう思われますか、項目ごとに表中のいずれかに○を記入してください。

～「豊かな自然環境に恵まれている」と思う人が約9割～

鳥取県内に暮らしていて良く感じる(そう思う)項目は、上位項目では「豊かな自然環境に恵まれている」が91.4%と最も割合が高く、次いで「地域の治安が良いと感じている」が64.6%、「住んでいる住民(県民)が親切である」が58.4%、「地域での人と人とのつながりがある」が56.4%と続き、自然環境、治安、人とのつながりの面を鳥取県内に暮らす良い面として答えている。

一方、鳥取県内に暮らしていて良いと感じない(そう思わない)項目は、上位項目では「生活するにあたり、公共交通機関が整っている」が59.1%で最も割合が高く、次いで「ストレスなく日常生活を送ることができる」が17.1%、「地域の防災組織が整っている」が14.9%と続いている。

平成28年度-令和元年度を比較してみると、良く感じる(そう思う)項目は全ての年度で、「豊かな自然環境に恵まれている」が約9割、「地域の治安が良いと感じている」が6割台、「住んでいる住民(県民)が親切である」「地域での人と人とのつながりがある」が5割台と高い。

一方、「生活するにあたり、公共交通機関が整っている」は1割台、「地域の防災組織が整っている」、「子どもの教育環境が充実している」は2割台と全ての年度で低くなっている。

また、前年度(30年度)との比較では、「生活するにあたり、公共交通機関が整っている」を除く全ての項目で良く感じる(そう思う)が増加している。

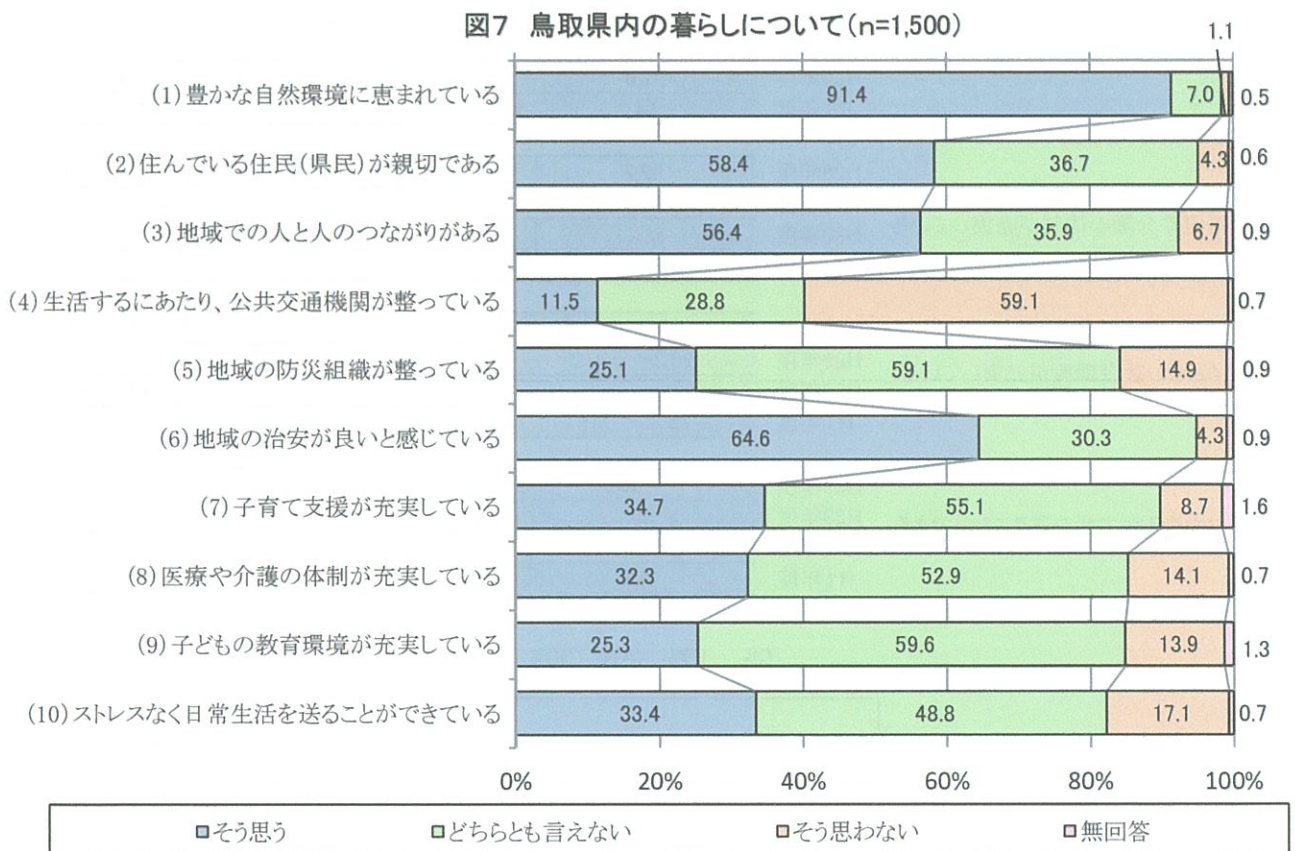


図8 鳥取県内の暮らしについて(n=1,500)

